



ゆづりは

堺市立図書館だより

第4巻 第3号 (通巻13号)
 発行日 平成21年12月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

晶子の秋

～「日本女性会議」関連行事を開催しました～

10月29日から11月1日まで「日本女性会議さかい2009」が堺市で開催されました。メインテーマは、堺出身の歌人・与謝野晶子の詩の一篇「山の動く日きたる」。この言葉は女性の自立と地位向上を求めるシンボルとなっています。図書館では大会に関連したテーマでブックフェアを行いました。また、ブックフェアを記念した講演会や、晶子をテーマとした資料展を開催しました。

●ブックフェア記念講演会「与謝野晶子・西から東へ 谷崎潤一郎・東から西へ ～誰も言わなかった二人の共通点～」

10月25日(日)南図書館において、たつみ都志先生(武庫川女子大学教授)による講演会を開催しました。堺にゆかりの深い晶子と、たつみ先生の研究対象である谷崎潤一郎という作家を比較し、共通点や相違点を挙げるといふ斬新な視点から見た、興味深い内容でした。

例えば二人の共通点として、『源氏物語』を訳したという点や、商家の出身であること、碁盤目の町並みの中で育ったこと等を挙げ、それらが作風や生き方にどう影響するのかを述べられました。参加された方々は配布された地図や資料を確認しながら、お話を熱心に聞いておられました。

ユーモアあふれる講演で会場は笑いが絶えず、「テンポある話し口調であつという間に時間がたった」「二人の作品を読んでみたいと思った」「講師の人間観が面白い」など多くの感想をいただきました。



●与謝野晶子展「山の動く日きたる」



10月21日(水)から11月1日(日)まで、中央図書館1階ロビーにおいて展示を行いました。与謝野晶子は今から百年近くも前に、性別による固定的な役割にとらわれることなく、すべての人がその個性と能力を輝かせることのできる社会の実現を呼びかけています。展示では、晶子の生涯を作品やパネルでたどり、評論集などの所蔵資料で、社会に向けての晶子の発言を紹介。「あらためて晶子のすばらしさを知った」など多くの方々にご好評をいただきました。展示をご覧いただけなかった方には、期間中配布された展示解説パンフレットを図書館で所蔵しておりますので、どうぞご覧ください。

目次

晶子の秋～「日本女性会議」記念行事を開催しました～ ……1

年末年始 休館のおしらせ…1

シリーズ堺の〇〇 ……2
「堺の地車騒動」

堺市図書館まつり ……2

堺かるた いろはの「り」…2

この本で解決！ ……3
～統計に関する質問～

司書のイチ押し！ ……4
『時刻表の達人』

資料(点検)整理によるお休みのおしらせ ……4

堺市立図書館電話番号一覧…4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。「年ごとに ゆづりゆづりて 譲り葉の ゆづりしあとに また新しく」



この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)

年末年始 休館のおしらせ

12月28日(月)～1月4日(月)
返却ポストも閉めています。

12月28日(月)
中央図書館は
臨時開館します
午前10時から午後5時まで

だんじりそどう
シリーズ「堺の〇〇」**「堺の地車騒動」**



地車といえば岸和田が有名ですが、明治までは堺旧市（現在の堺区の一部）にも地車があり、豪壮な造りで名を馳せていました。それがなぜ今の堺では布団太鼓なのでしょう。その背景には明治29（1896）年8月1日に起こった「堺の地車騒動」と呼ばれる事件が大きく関わっています。

『堺大観1・2』（堺史編纂係）などの文献によると、住吉大社の御祓い祭に参加した湊組の船地車と北の包丁鍛冶組の地車が、中之町の大道（だいどう）で鉢合わせとなって対立、双方譲らず論争の末、上では民家の屋根瓦を投げ、下では大乱闘の大喧嘩、遂には包丁鍛冶組の1人が大きな槍を持ち出して2人を殺傷した、とあります。この騒動で、江戸時代より継承されてきた堺の地車は一切曳行禁止となり、地車は売り払われ、地車彫刻で有名な一門は堺を離れてしまいました。

曳行再開の願いは何度も却下されましたが、日露戦争の勝利を祝し、明治39年に地車以外の曳行許可がありました。それ以降、堺旧市の町は次々と布団太鼓をつくり、盛んになりました。一方、地車は昭和以降に合併を行った新市域で見ることができません。

———さらにひとこと———

（写真＝地車の模型）

『朝日新聞 明治編43』（日本図書センター）によると、8月4日の東京版に「堺の大喧嘩」という記事が掲載されており、この事件が全国的に知られたことがわかります。また、『堺・布団太鼓盛衰記』（山中啓祐己）や『だんじり堺』（堺泉州出版会）、『泉州地車往来』（岩根淳）などにも、関連したお話が書かれています。

堺市図書館まつり



11月7日・8日、中央図書館にて堺市図書館まつりが開催されました（主催：堺市図書館まつり実行委員会）。

おはなし・よみきかせ・人形劇・手づくり教室・あそびのひろば・えほんのひろば・図書館探検など、たくさんの催しを楽しんでいただきました。

**子ども読書活動推進講座
各区で開催します**

子どもが本と出会う橋渡しとしてもっとも身近な存在である保護者のみなさんに向けて、子どもの年代別の講座を12月から各区で開催します。

また、そのほかにもさまざまな催しを企画しております。広報さかい、図書館ホームページ等でご案内しますので、ぜひご参加ください。

堺かるた - いろはの「り」

「利よりも害 港つぶした 大和川」

大和川は、今から約300年前に付け替えが行われました。付け替えによって大量の土砂が堺の港に流れ込んだため港の衰退を招いたと言われています。一方で土砂で埋め立てられたことによって新田の開墾が行われるようになったこと、また遠浅の海であったため元々大型船の入港ができなかったことなど、付け替えがすべてマイナスではないという考えも広まってきています。



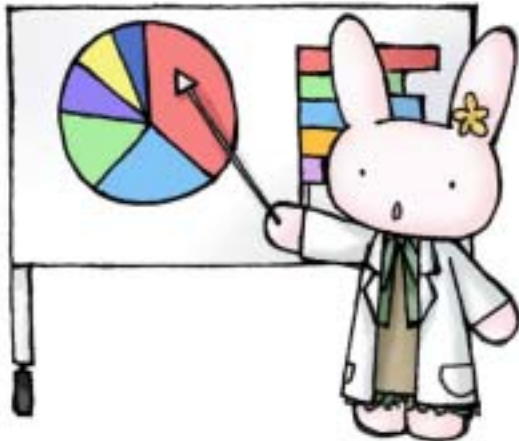
この本で解決！

～統計に関する質問～

各国の出版文化というテーマでインク会社から広報誌の記事を受託した。資料作りのために、まず各国の新刊出版点数から調べよう。

このような数値を調べる場合、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）の出版点数比較統計が便利でしたが、2000年以降中断されたままになっています。現在これに代わるものがIPA（国際出版社連合）の出版統計で、「**出版年鑑**」や「**世界国勢図会**」も、この統計の数値を掲載しています。ただし、統計の取り方に統一基準がないことや、データ数の不足（2006年は4ヶ国のみ）による理由から、厳密な比較には適さないという意見もあります。ちなみに日本の2008年の出版点数は、78,013点です（「**出版年鑑**」）。

→ やはり数字があると、文章に説得力がでるな。あとはいろいろ取材してみるか…



わが町の若者の就職斡旋先の候補として、漁港があがった。水揚量が多い港だと仕事も多いだろうから、上位から調べていこう。

「**平成17年水産物流統計年報**」に上位10漁港の上場水揚量（産地市場において取り扱われた数量）が載っています（農林水産省のホームページで公開）。上位5位を1位から順に挙げると、焼津（静岡県）、銚子（千葉県）、石巻（宮城県）、八戸（青森県）、釧路（北海道）、となります。この上位10漁港の統計ですが、2006年より魚種の調査品目が総水揚量を含む108品目から25品目に減らされ、漁港別調査が休止状態のため、2006年以降の数値を調べることができません。そのため「**朝日ジュニア学習年鑑**」では、主な漁港50港の月報数値を積み上げて、独自統計を掲載しています。

→ なるほど名前はよく聞くとおぼろげばかりだ。順番に現地調査してみよう。

図書館で実際に回答した例をもとに、読みやすいストーリー仕立てにしてみました。仕事で資料作りをするときなども、ぜひ図書館をご活用ください。

わが社が製作した、今度の新作映画は時代劇だ。江戸時代の人口や武士の比率を調べて、ぜひ宣伝文句に使いたい。

まず総人口ですが、弘化3年（1846）の統計（今日伝わる江戸時代最終の全国人口調査）を元にすると、人口は約2691万人ということになります（「**国史大辞典**」）。ただし幕府の人口調査の対象は庶民人口に限られており、この約2691万人の人口に武士人口は含まれていませんが、「**歴史人口学のフロンティア**」（東洋経済新報社）では、幕末の武士人口を「200万人程度」としています。次に武士の割合についてですが、歴史学者の関山直太郎は、明治初めの身分別・職業別人口構成から幕末の身分別人口比を推計して「武士の比率は六ないし七%程度」と記しています（「**近世日本の人口構造**」）。また堺市立小学校で使用している教科書、「**新編新しい社会6上**」（東京書籍）でも、武士の人口を7%としています（「江戸時代の身分ごとの人口の割合」）。

→ 「2700万の庶民vs.200万の武士！」「武士率7%から100%へ！日本総武士化計画発動！」というキャッチコピーにしようかな…

江戸時代のテーマパークを作るにあたり、当時と現代の日本人の体型の違いをわかりやすく展示するため、模型をつくることになった。まず、それぞれの時代の平均身長から調べたいのだが。

「**平成18年国民健康・栄養の現状**」に男女別・年齢階級別の身長・体重の平均値が載っています（厚生労働省のホームページでも公開）。20歳以上の平均身長は男性166.7cm、女性153.6cmとなっています（20-29歳では、男性171.5cm、女性158.1cm）。江戸時代の人の平均身長はというと、「**衣食住の歴史 ポプラディア情報館**」によると、男性155cm、女性145cm（男女とも推定値）。これは、それまでの時代でもっとも低い数字だそうです。

→ 身長はけっこう差があって面白いぞ。ほかにも服装や髪型などの情報も必要だな。



司書のイキ押し!

『時刻表の達人』 福岡 健一／著 PHP研究所

最近の鉄道ブームで時刻表がよく売れているとか。インターネットだと調べたい事だけを調べて終わりですが、時刻表は見るだけでどこかに行きたい気分になります。私も暇さえあればいろいろプランをたてて机上旅行を楽しんでいます。

しかし時刻表は、慣れないとなかなか使いづらいもの。そんな方には『時刻表の達人』（PHP研究所）。子ども向けに書かれているので初心者にも非常にわかりやすいです。実際の時刻表を例にカラー写真も交え、ここまで丁寧に説明した本はあまりありません。また、豆知識（たとえば、改札からホームまで10分もかかる駅がある）なども書かれており、肩の凝らないよみものとしてもオススメです。

さて、時刻表と言えばすぐ思い浮かぶのは毎月発行されている『JTB時刻表』（JTBパブリッシング）と『JR時刻表』（交通新聞社）ですね。両方ともJRの時刻・運賃を中心に、私鉄・バス・船・航空機の時刻・運賃、お得なきっぷの案内、宿泊施設ガイド、さらに観光案内やおみやげまで掲載されており実に盛りだくさんな内容で、時刻を調べるのみならずちょっとした情報誌としても活用できます。

これだけではありません。『JR貨物時刻表』（鉄道貨物協会）は、貨物列車の時刻のみをとりあげた時刻表。JRだけでなく私鉄の貨物列車もとりあげています。旅客列車ではめっきり少なくなった機関車の運用表も掲載されており、機関車好きの「撮り鉄」には必携です。

海外ではどうかというと『トーマスクック・ヨーロッパ鉄道時刻表』（ダイヤモンド・ビッグ社）。ヨーロッパ全体の鉄道と船のダイヤについて、路線を厳選してコンパクトにまとめたものです。旅行者に必要な路線はほぼ全部網羅されています。主に英語で書かれていますが、時刻表の読み方や用語辞典のページもあるので初心者でも安心です。

ところで、日本初の鉄道は1872（明治5）年、新橋・横浜間に開通というのはよく知られていますが、当時時刻表はあったのでしょうか。

『史料鉄道時刻表』（鉄道史録会／編 大正出版）には、明治時代前半の時刻表・運賃表などが復刻されており、存在していたことがわかります。これによると、明治5年には新橋・横浜間が所要53分、運転本数が1日9往復ということです。地元の鉄道でいうと、今の南海本線の前身である阪堺鉄道の難波～堺間の時刻も掲載されており、鉄道好きのみならず歴史好きにも興味のわく本です。（F・K）

資料（点検）整理によるお休みのおしらせ

整理期間の間、館内にある資料すべてを一冊一冊点検していく作業を行っています。休館日を減らせるように、作業の効率化、改善を繰り返しておりますが、お求めの資料を確実に提供していくためには欠かせない作業です。ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

堺市駅前分館
12月9日(水)～12月11日(金)

人権ふれあいセンター
図書ホール
1月20日(水)～1月22日(金)

梅分館
1月27日(水)～1月29日(金)

美木多分館
1月27日(水)～1月29日(金)

北図書館
2月1日(月)～2月5日(金)

美原図書館
2月15日(月)～2月22日(月)

堺市立図書館

電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
梅分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター 図書ホール	245-2534
青少年センター 図書室	228-6331